

まちづくり メールニュース



本号の掲載記事

- 第 26 回「緑の都市賞」募集のご案内
- 講話：マーケティングの視点から「公園」を見直す
- ひとつのレンガがまちをつくる ～「らぶりっく！！いわみざわ」プロジェクト参加募集のご案内～
- 斜里町でまちなみ景観講演会が開催されました ～どう変える？景観から考える中心市街地～
- 釧路まちづくり懇談会が開催されました
- 滝野すずらん丘陵公園からのお知らせです
- まちづくり事例紹介（花と香りによるまちづくり ～北見市～ ～第 15 回全国ハーブサミット北見大会の開催～）
- コラム（「熱い思いにふれて…」）

第 26 回「緑の都市賞」募集のご案内

「緑の都市賞」は、都市の緑化推進、緑の保全による快適で地球にやさしい生活環境の創出を推進することを目的として、樹木や花などの「みどり」を用いた環境の改善、景観の向上、緑のリサイクル等に取り組み、緑化や緑の保全の実績に良好な効果を上げている市民団体、企業、公共団体等からの事例を募集し、表彰するものです。

○募集部門

- ・ **緑の拠点づくり部門**：都市部もしくは都市近郊の公共あるいは民間の個別の施設を対象として、緑化や緑の保全に取り組み、その成果を挙げているもの
- ・ **緑の地域づくり部門**：都市部もしくは都市近郊の地域や地区を対象として、線的あるいは面的な広がりのある緑化や緑の保全に取り組み、その成果を挙げているもの
- ・ **緑の都市づくり部門**：都市全般の緑化に取り組み、その成果をあげているもので、地域の個性を活かした緑化を展開しているもの

○前回の受賞団体

受賞団体	賞	受賞部門
岐阜県各務原市	内閣総理大臣賞	緑の都市づくり部門
開運橋花壇クラブ（岩手県盛岡市）	国土交通大臣賞	施設緑化部門
緑園都市コミュニティ協会（神奈川県横浜市）	国土交通大臣賞	地域緑化部門
国立成育医療センター（東京都世田谷区）	都市緑化基金会長賞	施設緑化部門
多摩平自治区/東京都日野市/独立行政法人都市再生機構東日本支社（東京都日野市）	都市緑化基金会長賞	地域緑化部門
千葉県松戸市	都市緑化基金会長賞	緑の都市づくり部門
阿波座南公園ビオトープクラブ/大阪市ゆとりみどり振興局西部方面公園事務所（大阪府大阪市）	審査委員長賞	施設緑化部門
三田花と緑のネットワーク/財団法人三田市都市施設整備管理公社（兵庫県三田市）	審査委員長賞	地域緑化部門
独立行政法人都市再生機構いわき都市開発事務所（福島県いわき市）	奨励賞	地域緑化部門

※応募条件・応募方法等その他詳細は、下記事務局までお問合せ願います。

《事務局》 〒102-0082
 東京都千代田区一番町10番地 一番町ウエストビル5階
 財団法人 都市緑化基金内 「緑の都市賞」係
 Tel 03-5275-2291

○表彰数

・内閣総理大臣賞：1点 国土交通大臣賞：3点以内 都市緑化基金会長賞：3点以内 奨励賞：若干

○募集期間、入選発表、表彰式等

- ・募集締切 平成18年6月30日(金)
- ・第一次審査 平成18年7月下旬から8月上旬
- ・現地調査 平成18年8月中旬から9月中旬
- ・第二次審査 平成18年9月上旬
- ・入選発表 平成18年10月上旬
- ・表彰式 平成18年10月27日(金)予定

1. NPO活動紹介の原稿募集

掲載を希望するNPOの方は、法人名、代表者名、連絡先(電話番号・メールアドレス)と掲載を希望する旨をまちづくり相談窓口(E-mail:machidukuri@hkd.mlit.go.jp)へメールにて送付してください。後日こちらから原稿作成のお願いのメールをします。

2. 道内市町村のまちづくりに関する事例紹介の原稿募集

掲載を希望する市町村の方は、市町村名、担当部署名及び担当者氏名と掲載を希望する旨をまちづくり相談窓口(E-mail:machidukuri@hkd.mlit.go.jp)へメールにて送付してください。後日こちらから原稿作成のお願いのメールをします。

3. まちづくり相談窓口と景観相談窓口を設置しています

北海道開発局 事業振興部 都市住宅課では、道内市町村担当者の方をはじめ、まちづくりや景観に関する取組みや活動を行っている方などのご相談に応じています。

<まちづくり相談窓口・景観相談窓口>

国土交通省 北海道開発局 事業振興部 都市住宅課
 (札幌市北区北8条西2丁目 札幌第1合同庁舎 16階)
 tel:011-709-2311 (内線5866、5867、5878)、fax:011-738-0235
 E-mail:machidukuri@hkd.mlit.go.jp

講話：マーケティングの視点から「公園」を見直す

(株)電通北海道 アカウント計画室長 臼井栄三氏
(北海道都市公園管理運営・利用促進部会 第1回検討会より)

1 ネーミングの鉄則

ネーミングは、実態に即していることが鉄則である。「ルル」という風邪薬があるが、「ルル」と聞くと私たちは「くしゃみ3回ルル3錠」というキャッチコピーと一緒に思い出す。薬の効用が、ネーミングとコピーで明解になる。また「太田胃散」はネーミングだけで薬の効用まで理解することができるという意味で、素晴らしいネーミングだと思う。

2 メッセージが本当に伝わるために

以前、北海道のイメージアップキャンペーンのキャッチフレーズを全国から公募した際、最終的に「試される大地」が選ばれた。なかなかチャレンジングなコピーだったと思う。別の視点から考えれば、個人的には「クマがのっそり、ムラがひっそり」といったユーモラスな路線もありなのでは、と感じた。

キャッチコピーは、それが使われたときの効果を狙って企画されなければならないのだが、一般的に行政の使うコピーは、メッセージを伝えようとする時に総花的になりがちなのは注意すべきであろう。人々は、物事をシンボリックに理解するので、何が「売り」なのかを、伝える側がわかりやすく明確にすることが肝要である。

3 お客様の喜びをつくる知恵くらべ競争

現代の若者は、暇な時に時間をつぶすために電話をする。我々の世代は、電話は用事のある時にするものだと思っており、若者は用事のないときに電話をする。こういった世代間での気付いていない意識のギャップは大きい。このギャップを理解しないと、人々のニーズを正確に把握することはできない。

臨床心理士による深層心理の分析を中心としたデプス・インタビューなどの調査が、マーケティングの分野でいま注目されている。たとえばアメリカのスーパーマーケットでは、男性が紙おむつを買う場合、一緒に缶ビールを買う確率が高いというデータがある。これをどう判断して活用するかが問われている。表向きの欲求だけでなく、本人も意識していない潜在意識レベルにまで踏み込んだ消費者マインドの把握が、マーケティングの世界では重要視されるようになってきている。

4 サウスウエスト・エアラインのあり方

アメリカのサウスウエスト・エアラインは、激しい市場競争の中で、好調な業績をあげている。彼らは、FUN(楽しさ)を基本コンセプトにして徹底的なサービスを実施している。例えばフロリダ行きの航空機では、フライト・アテンダントが機内でフロリダの雰囲気を楽しく演出したり、ゲームを行ったりしてエンターテイメントに徹している。これからはサウスウエスト・エアラインの事例に見られるように、実際になされるコンテンツが勝負を分ける時代である。

5 ブランドは人々の心の中につくられる

自宅に届く北海道トンデンファームのメルマガがおもしろい。送られてくる内容の半分以上は、会社の商品とほとんど関係ない話題で占められている。例えば、トンデン倶楽部編集長の次女のエピソードが非常にユニークだったりする。おもしろいものに人は集まる。もし情報発信をするなら、強力な企画力と、コンテンツづくりに明快な個性を出せる人がやらなければ、情報は広く認知されない時代である。

現代は無駄を楽しむ時代であり、それは無駄を楽しめるゆとりが社会全般に出てきたからである。

6 何によって、No.1 または Only 1になるか

激しい競争に勝つためには、何かひとつでもいいから No.1 もしくは Only 1 のものを持つことだ。例えば「国営滝野すずらん丘陵公園」と名乗るのであれば、日本一のすずらん群生地があると

というような「売り」がなければ人をひきつけることはなかなかできない。自分たちの資源で、何によって No. 1 または Only 1 になるかを真剣に考えたい。

7 人々が思っているのは What's in it for ME ?

これまでの時代は、それが自分にとってどんな役に立つかということが買う時の判断基準だった。現代は、役に立つかどうかという観点とは別に、自分にとっていかに「おもしろいか」どうかということが大事なポイントになっている。

8 コンシューマー・インサイトの重要性

コンシューマー・インサイトとは、人々の心の中に入り込み、人が何を感じ、何を求めているかパーセプションの変化を起こすための心のボタンを発見することをいう。消費者ニーズを把握するために特に重要な視点である。このインサイトで得た結果により、私たちはユーザーの立場で理解し、サービスや商品の特徴づけを行っていくことが非常に重要となる。

9 顧客志向より顧客視点を；たとえば自分自身が思いっきりワガママになってみる

これからの時代は、自分自身がワガママな顧客になった視点で物事を考えることが大切である。たとえば、外国からの観光客を公園に多く誘致したいと思ったら、園内の一部を外国人専用エリアとして、彼らに「心からサービスされている」という気分を味わってもらおうといった思い切った発想も必要なのではないか。

10 「公」の意識から離れ、コンテンツを強くし、ストーリーを可視化する

公園をもっと味のあるものにする必要がある。「公」ばかりを追い求めても、そこにストーリーは生まれにくい。一人一人の「私」がいきいきするような、こだわりのある企画が必要だ。先のオリンピックで、得点には関係しないにも拘わらず演技に取り入れ、世界を魅了したフィギュアスケートの荒川選手のイナバウアーへのこだわり、強い思い込みのようなものが大事なのではないだろうか。

11 行政の論理を、どう通訳するか？

いま、団塊の世代をターゲットにした消費論、時代論が盛んである。公園についても、団塊の世代の深層心理にどう働きかけていくかということをもっと考えられていいだろう。団塊の世代は、今後も社会に大きな影響を与え続けるからだ。

たとえば、そこに行く年齢が6掛けになって若返ったように感じる世界を演出するといった発想はどうだろうか？

また、しっかり手をかける部分と何も手をかけない自然のままの部分とのギャップが大きいほどおもしろい。北海道らしいおおらかさは、何によっていちばん表現できるのか、といったアプローチも大切にしたい。

12 人が集まるイベントプランニングのポイント

人は曜日単位で行動するので、定期的にイベントを打つのであれば曜日単位で設定すべきだろう。日にち指定で打っても、人々の頭にインプットされにくいものである。

プランニングの基本は、どんな場合でも「どうすれば人々はより行動したくなるのか」という視点である。

<臼井栄三氏のプロフィール>

1949年茨城県生まれ。電通北海道でマーケティング、情報発信、広告コミュニケーションに関する幅広いディレクションに携わっている。コピーライター、クリエイティブ・ディレクターとしても数々の賞を受賞。

(受賞) 東京コピーライターズクラブ新人賞、札幌コピーライターズクラブ最高賞、

全日本広告連盟広告大賞、毎日広告デザイン賞、全北海道広告協会最高賞、北海道新聞広告賞最優秀賞 他

(著書) 「東京発の広告 13の忘れもの」(誠文堂新光社)

(共著) 「不思議の国の広告」(福武書店)

ひとつのレンガがまちをつくる ～「らぶりっく！！いわみざわ」プロジェクト参加募集のご案内～

かつて、石炭産業を背景に「鉄道のまち」として繁栄を極めた北海道岩見沢市。

東北以北随一の規模を誇る操車場には、次々と機関車が行き交い、まちは炭鉱で働く多くの人々で賑わっていました。しかし、平成 12 年 12 月、まちの象徴だった 3 代目の駅舎が焼失。市民の誇りとして、まちを支えてきた駅舎を失ったことは、市民にはとても衝撃的な出来事でした。

それから 6 年。ようやく、待ちに待った 4 代目の岩見沢駅が誕生します。岩見沢の歴史・文化・風土を象徴する真っ赤なレンガで彩られた駅の誕生と、新しいまちづくりのはじまりを記念して、「らぶりっく！！いわみざわ」に参加していただける方々を募集します。そして、参加者皆さんの名前を刻んだレンガで駅舎を創りたいと思います。

一般の方々からレンガ 1 個を寄付していただき、協力して頂いた方の名前と現住所（または出身地）を英語やローマ字でレンガに刻み、そのレンガで駅舎をつくるというプロジェクトです。

4 月 1 日より、岩見沢にて先行受付を開始し、5 月 15 日より WEB にて日本中、世界中に向けて募集を開始しました。岩見沢先行受付にて、すでに 2,000 個分を超える参加者が集まっています。

○募集受付期間：平成 18 年 9 月 30 日（土）まで（参加総数が 5,000 個分に達した時点で締切となります。）

○募集個数：5,000 個

○申込方法

- ・申込用紙による受付：岩見沢レンガプロジェクト事務局で配布している申込用紙に必要事項を記入の上、当事務局へご持参下さい。
- ・ホームページによる受付：当事務局のホームページ (<http://www.love-brick.com/>) にアクセスの上、お申し込み下さい。
- ・FAX 及び郵送での申し込みは受け付けておりません。

○参加費用：1 個 1,500 円（おひとり様 1 個、刻印名は 1 名様分に限りませす。）

○刻印レンガの設置場所について

複合駅舎（駅施設・市施設・昇降棟の 3 つのゾーンのいずれか）の壁に設置されますが、設置ゾーンの選択はできません。

○設置された刻印レンガの公開時期

工事の工程が決まり次第正式発表されますが、最終的にすべての刻印レンガが公開されるのは、複合駅舎が完成する平成 20 年度中を予定しています。

< 詳細については、岩見沢レンガプロジェクト事務局へお問合せ下さい。 >

岩見沢レンガプロジェクト事務局

〒068-0024 岩見沢市 4 条西 2 丁目 4-1 プラットパーク Z AWA ハウス内

tel&fax:0126-23-8288

E-mail: info@love-brick.com

<http://www.love-brick.com>

斜里町でまちなみ景観講演会が開催されました ～どう変える？景観から考える中心市街地～



斜里町では、中心市街地となっている知床斜里駅周辺地区の道路整備等が予定されており、それに合わせて、中心市街地活性化につながるような市街地の魅力づくりをどのように行うかを行政・民間等が協働して検討を行ってきました。

そして、昨年度、北海道開発局都市住宅課が実施した「世界自然遺産『知床』圏域の景観形成のあり方検討委員会」がきっかけとなり、この委員会の委員を務めた知床総合研究所の木村哲明代表が中心となって、この委員会の委員長を務めた堀 繁東京大学教授を招き、まちなみ景観講演会が5月17日（水）斜里町において開催さ

れました。

この講演会には、斜里町の行政・民間の方をはじめ、町外の方も含めて約80名が出席して、3時間という長時間にもかかわらず、堀 繁教授の話を中心に聞いておりました。

堀 繁教授から、景観に関する基礎理論について講演された後、まちなみに賑わいを創出するための提案をされました。

- ・ 街路整備と沿道の商店街の取組みをセットでやらないと、賑わいにつながらない。
⇒観光客が多く訪れるようにするためには、商店街の取組みが重要。
- ・ 観光客の目に入る商店の1階部分をどのように演出するかが重要（2階以上高い部分は、観光客からの目に入りづらい。）。

< 商売を成功させる「商店の3種の神器」 >

- ①挨拶の装置…店の人になりかわって、歩いている観光客にあいさつの心を表現するもの
⇒植物を置く
- ②迎客の装置…観光客におもてなしの心を表現するもの
⇒のれん、ベンチ、縁台、照明を設置する
- ③集客の装置…商店の魅力観光客に表現するもの
⇒メニューや商品の陳列、屋号看板を手書きのものにするなどの工夫

上記①～③をバランスよく行う（③は「儲けさせて」という気持ちが強く出ると、①や②に比べて少なく表現することが重要。）。

- ・ 大きなのぼりは、集客の装置としては表現がきついため、観光客にいやみに映る。
- ・ 商店の照明は、魅力を高めるために重要なもの。
- ・ 例えば、たこ焼き屋や喫茶店などは、店の前にテーブルやイスを設置し、そこで食べてもらうと、その食べている姿を見て、歩いている観光客もその店に入ってみたくなる（そこで食べている人が「さくら」になっている。）。

この景観講演会を通じて感じたことは、行政が沿道の整備をし、ビジネスチャンスとなったものをどのようにビジネスにつなげるのかは、その商店街の方々の取組みが非常に重要となることです。

観光客がその商店街を訪れた際に、おもてなしの心を感じて楽しんでもらえると、リピーターとして期待できるとともに、口コミなどで広がってさらに観光客が増え、その商店街の賑わいにつながるような気がします。

また、景観形成のあり方検討委員会には、羅臼町の方にも入っていただいております。この委員会がかきかけとなって、羅臼町においても取組みを始めてみようという気運が高まってきております。このように斜里町・羅臼町だけではなく、他の市町村においてもこの委員会で検討された内容を活用していただければと考えているとともに、予算的に許されるのであれば、景観形成を切り口とした賑わいのある市街地整備のあり方などを提案させていただき調査を実施してみたいと考えております。

（文責：都市住宅課 森川）

「釧路まちづくり懇談会」が開催されました



去る5月19日、釧路市でまちづくり活動を行っている方々に集まっていただき、「釧路まちづくり懇談会」を開催しました。

昨今、釧路市は、炭鉱の閉山、北洋漁業の衰退、百貨店の撤退等暗い話題を耳にしますが、そのような状況の中でも今回お集まりいただいた方々からは、今後のまちづくりについて力強い抱負を聞くことができました。

行政の立場でまちづくりに携わる人間として、実践から得られた経験をもとにした一つ一つの発言の重みに身が引き締まる思いをした懇談会でした。

～釧路まちづくり懇談会出席者～

浜木 義雄 氏 「釧路ふるさと塾」会長、ズリ山に芝桜を植える運動やまちの活性化に取り組む。

西村 能範 氏 「釧路ふるさと塾」幹事長、まちの活性化に取り組む。

渡辺 武朗 氏 「春採湖の会」事務局長、春採湖湖の浄化活動に取り組む。

佐竹 直子 氏 「ボランティアネットワーク・チャレンジ隊」代表、釧路のまちづくり団体の橋渡しし及び市民のまちづくり活動への理解向上に取り組む。

カク ユキヒロ 氏 「ボランティアネットワーク・チャレンジ隊」会員、釧路のまちづくり活動を発信する情報誌の作成に取り組む。

小杉 和寛 氏 「釧路シャケの会」事務局長、釧路川からシャケの稚魚を放流する活動に取り組む。

小林 友幸 氏 「城山工房、達人倶楽部 城山商店振興組合」専務、地域の高齢者が持つ知識、能力を活用してまちの活性化に取り組む。

正垣喜美子氏 「旭町フラワー通りをつくる会」代表、ズリ山での植樹やまちの緑化活動に取り組む。

土門日出夫氏 「釧路ゆめこい倶楽部」会員、まちの活性化に取り組む。

坂本 淳 氏 「阿寒町ふるさとづくり推進会議」事務局長、まちの活性化に取り組む。

～主な発言～

- ・ まちづくり活動の後継者を育てる必要性を日頃から感じている。
- ・ 目立たなくても地道にまちづくり活動を行っている人々に光を当てる仕組みが必要である。
- ・ 高齢者がサービスを受ける方ではなく提供する方になるような活動を行っていききたい。
- ・ 我々が生きていく上で大切なキーワードは、教育、環境、福祉である。しかし、実際にまちづくりの議論を行う時にその視点が抜け落ちているのが現実である。
- ・ 現在の子供たちは、自然と触れ合う機会が少なくなってきている。学校任せにするのではなく、地域の方で子供たちに自然と触れ合う機会をつくってあげなければならない。
- ・ 大学が持つ知識を今後のまちづくりに活用していきたい。
- ・ 釧路は、モスクワよりも寒冷であることから、そのような厳しい自然条件の中で、人間が自然とどのような折り合いを付けているのかを学ぶことができる絶好の土地である。
- ・ まちづくり活動は、誰でも取り組むことができる活動であるが、なかなか自発的に取り組んでいこうという人がいない。一歩前に足を踏み出す小さな勇気を持つか持たないかである。
- ・ 高齢化社会の到来を恐れるのではなく、高齢者の力を積極的に活用してまちづくりを行う時代にしていかなければならない。

(文責：都市住宅課 本間)

滝野すずらん丘陵公園からのお知らせです

緑豊かな潤いのあるまちづくりを進めるために、春の都市緑化推進運動を4月1日から6月30日まで展開することになっており、都市緑化の推進と都市公園の重要性を広く国民に広報することを目的として、6月17日(土)は、**無料開園いたします**(駐車料金はかかりません。)

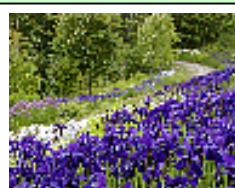
※本年は、都市公園法施行50周年、古都における歴史的風土に関する特別措置法施行40周年、国営公園制度制定30年にあたる記念すべき年です。

6月17日(土)には、様々なイベントが予定されております。

滝野の蒼い初夏



メコノプシス



シベリアアヤメ

蒼い花の誘い

イングリッシュブルーベルや「ヒマラヤの蒼いケシ」と呼ばれるメコノプシス、デルフィニウムやシベリアアヤメなどの蒼い花たちが次々に見頃を迎えます。

森のお花屋さん

春から夏にかけてカントリーガーデンを彩る草花の苗を格安で販売！園芸アドバイスもお気軽にどうぞ。(カントリーハウス前特設会場 10:00~15:00)



森のお花屋さん

緑・花知っ得ラリー

花と緑の面白さが広がるクイズラリー。園内植物の解説プレートがクイズ形式に！楽しみながら学べます。(カントリーガーデン)

季節の花の寄せ植え講座

コンテナガーデニングマスターを講師に招き、季節の花で植え込んでいく寄せ植え教室に参加してみませんか。

(事前にお申込みが必要です。詳しくは、滝野公園案内所 tel:011-592-3333 へお問い合わせ下さい。)

青少年山の家 自然観察ハイキング

緑の季節を感じながら、「青少年山の家」や滝野公園内のハイキングコースをゆっくりと楽しむ観察会です。

(事前にお申込みが必要です。詳しくは、青少年山の家 tel:011-591-0303 へお問い合わせ下さい。)

まちづくり 事例紹介 その48

花と香りによるまちづくり

～ 北見市 ～

～第15回全国ハーブサミット北見大会の開催～

1. はじめに



北見市は、明治30年頃に高知で組織された北光社移民団と北の防備と開拓を担った屯田兵が入植し、本格的な開拓が始まりました。

当時、野付牛と呼ばれていた北見を地域の中核都市に押し上げたのは、大正時代に盛んに行われていた薄荷の栽培でした。

北見地方の気候は、寒暖の差が大きく、葉の乾燥期には雨が少ないため、薄荷の栽培には非常に適していました。最盛期の昭和10年代初めには、世界の7割の生産量を誇り、北見の、そして日本の特産品として世界中にその名を知らしめました。

現在も、薄荷を利用した特産品の販売などのほか、薄荷の歴史的遺産を保持するハッカ記念館や薄荷蒸留館において、歴史を伝える様々な資料の展示やハッカ蒸留実験を実施し、先人達の夢と浪漫を甦らせております。

2. 香りゃんせ公園

北見ハッカの歴史的遺産を受け継いで、香りを意識した個性的な地域文化を創造し、魅力ある精神風土の灯りを再び輝かすことを目的に、平成6年、市民グループによる『香り彩るまちづくり推進機構』が設立され、花と香りによるまちづくりが始まりました。

今ある環境を次の世代に、より良い環境にして引き継ぎ、また、地域環境の保全に住民自らが関わることのできる仕組みづくりとして、住民、企業及び行政間のパートナーシップの構築を求め、ハーブガーデンの造成を国や市に提案し、実行されることとなりました。

平成7年、活動の拠点となるハーブガーデンと噴水施設からなる「香りゃんせ公園」の造成が常呂川河川敷に始まりました。平成9年より一般市民参加によるコミュニティガーデンづくりが行われ、現在までに800組を超える市民が植栽から刈り取りまで参加しました。また、各種団体や企業がフラワーガーデン、ノットガーデンの造成などに参画し、市民の憩いの場として広く活用されています。



○『香り彩るまちづくり推進機構』の主な活動

ハーブ利用法など各種講習会の実施、香り教室等への講師派遣、香りゃんせフェスティバル、収穫祭等ハーブ関連イベントの開催し、花と香りを取り入れた生活文化の研究と啓発普及活動を実施しています。

○栽培規模（植栽種類等）

・公園全体面積…10.4ha（うち植栽面積…約6ha）

・植栽種類（約38種）

オレガノ（フラワーガーデン）、

サントリーナ、ジャーマンカモミール、キャットミント他（ノットガーデン）

アップルミント、コモンセージ、ダイヤーズカモミール、チャイブ他（コミュニティガーデン）

○管理・運営体制

香りゃんせ公園は、市民自ら植栽・管理するコミュニティガーデン、企業が管理しているノットガーデン、そして市が管理しているフラワーガーデンと噴水等の多目的広場に分割されています。

コミュニティガーデンは、1区画約12㎡をハーブガーデンとして無料で市民に貸し出しており、ハーブを生活の中に取り入れるなどハーブのある暮らしを市民に楽しんでいただいております。

○「香りゃんせフェスティバル」

毎年7月に「香りゃんせフェスティバル」を開催し、ハーブウエディングや手作り体験コーナー、ハーブ料理コーナーなど多彩な催しを行っており、2,000人を超える多くの方が訪れます。

3. 全国ハーブサミット北見大会



全国ハーブサミットは、ハーブを様々な角度から活用して人々の豊かな暮らしと魅力ある地域づくりに取り組む全国の自治体・関係団体が集い、相互に情報交換やネットワークの確立を図ることによって、それぞれが個性と特色を持った魅力あるまちづくりを推進することを目的に平成4年度から開催しております。

北見大会では、以下のことを目指し、準備を進めています。



- ①全国ハーブサミットを開催するにあたり、「日本人と香りを考える。」をテーマに、日本の伝統的な香の文化を北の大地で体験する。
- ②市民主体のハーブ公園づくりと花と香りによるまちづくりを全国に発信する。
- ③薄荷を含めたハーブの持つ多様な効能を生かした地域名産品の研究開発を進める。
- ④北海道オホーツクの広大で肥沃な大地や壮大な大自然に恵まれた環境を活かし、花と緑があふれる自然を体験する。
- ⑤薄荷の歴史的遺産を受け継ぎ、花と香りのまちづくりを積極的に進める。
- ⑥平成18年3月、北見市・端野町、常呂町、留辺蕊町の1市3町が合併したことから、全地域一体となった取り組みを展開することにより地域の魅力を高め、また、それぞれの地域の連携を強化することにより、新たなオホーツクを全国に発信する。

第15回全国ハーブサミット北見大会スケジュール

<7/15日(土)>

*生薬学会ハーブシンポジウム

会場/北見芸術文化ホール 時間/13:00~15:30 各講演会30分 4講演予定
料金/入場無料 北方先住民族の有用植物などの情報満載です。

*アイヌ英雄叙事詩 ユーカラ劇

会場/北見芸術文化ホール 開演/午後4時 料金/無料(入場整理券必要)
出演/阿寒アイヌ工芸協同組合 【天駆ける英雄物語】乞うご期待ください。

<7/16日(日)>

*香りゃんせフェスティバル 会場/香りゃんせ公園

- | | |
|-------------|--|
| 10:00 | 開会式、コミュニティガーデン感謝状贈呈式 |
| 10:30~13:30 | ハーブコンサート 出演/市内中・高校生吹奏楽部 |
| 14:00 | 全国ハーブサミットオープニングセレモニー |
| 14:30 | 特別料理教室 “ハーブを使って 体にやさしい 癒しのレシピ”
北ガスクッキングスクール統括主任講師 坂井美恵子 |
| 15:30 | 花づくりコンテスト結果発表、表彰式 |
| 16:00 | ハーブウェディング(お申込み受付中) |

<ハーブサミット交流会> 「ザ・オホーツク豪快バーベキュー」

時間/18:00～ 料金/お一人様 5,000 円 (事前にお申込みください)

料理内容/牛・羊の香草焼、貝付きホタテの海鮮焼き、北見メロンなど

新鮮・安心食材が盛りたくさんと飲み放題 (地ビールもあるっしょ！)

<コーナーイベント>

香り体験コーナー、花づくりコンテスト、香りクイズ、ハーブ料理コーナー・ハーブ屋台村、薄荷蒸留コーナー、リラクゼーションコーナー、ハーブネットワーク展、ふるさと物産コーナー、ハーブプロモーションコーナー、花たび北海道スタンプラリー、ハーブ収穫、河川愛護キャンペーン、薄荷野立て など

<市内ハーブ関連施設巡回バス> 申込み不要

Aコース (ここでしか見られない! 実物 田中式薄荷蒸留実演と広大な農村風景)

香りゃんせ公園 ⇒ クッカーたんの ⇒ 仁頃ハッカ公園 ⇒ 香りゃんせ公園

Bコース (究極の完全無農薬ハーブと緑に囲まれ心も体もリラックス)

香りゃんせ公園 ⇒ 香遊生活 ⇒ 緑のセンター ⇒ 香りゃんせ公園

Cコース (北見ハッカの歴史と東洋一のパノラマ花園をお楽しみに)

香りゃんせ公園 ⇒ ハッカ記念館 ⇒ フラワーパラダイス ⇒ 香りゃんせ公園

●北見駅 (南口) ⇄ 香りゃんせ公園 の送迎バスも用意しております。

<7/17日(月) 海の日>

*エクスカーションツアー (有料) 募集中

- (1) 日帰りコース (知床散策コース、ワッカ原生花園散策コース、阿寒湖コース)
- (2) 1泊コース (知床コース、温根湯温泉コース、マリモの里阿寒湖コース)

ハーブサミット開催にあたり、私たちが取り組んできた市民主体のハーブ公園をご紹介するとともに、北海道の雄大な自然と爽やかな気候の中で皆様をお迎えする準備を進めておりますので、是非ご期待ください。

<全国ハーブサミット北見大会専用ホームページ>

<http://www.kaoryanse.com/15th/>

<申込み・問合せ先>

第 15 回全国ハーブサミット北見大会事務局
〒090-8501 北海道北見市北 5 条東 2 丁目
北見市都市建設部公園緑地課内
TEL : 0157 - 25 - 1139 FAX : 0157 - 25 - 1262
E-mail : koen@city.kitami.lg.jp

北海道開発局ホームページでは「まちづくりメールニュース」のバックナンバーを PDF 形式で閲覧できます。

http://www.hkd.mlit.go.jp/zigyoka/z_jigyousinko/sinko_03_1.htm

コラム

「熱い思いにふれて…」

今年も芝桜の季節を迎えて思うことがある。釧路での単身生活を始めて間もない平成9年5月に、ぶらりと釧路川にかかる幣舞橋近くの港文館（釧路新聞の記念館）を訪れ、その後、屋根に大きく「カニ」の看板を掲げた小さなカニ屋さんを発見した。御主人と思われる人が黙々と働いていた。その方は、浜木義雅さん、「カニ屋の父さん」と呼ばれている（以下「父さん」と書く。）。釧路在住中、また、釧路を離れてからも、公私に渡りお世話になっている。

この父さん達は、「釧路芝桜の会」を結成して、釧路市桜ヶ岡にある旧太平洋炭鉱のズリ山に芝桜を咲かせようというユニークな取り組みを行っている。

太平洋炭鉱（株）は、大正9年に創業を開始し、ピーク時には年間250万トンを超える出炭量を誇っていたが、政府の石炭政策により平成14年1月にその歴史の幕を閉じた。

「釧路芝桜の会」は、「地域を支えて来た石炭への恩返しに」と、平成11年に数名の有志の発想から出発した。この広大なズリ山の斜面は、土壌は最悪、雪が積もらないほど風は強烈。資金も、ノウハウもない中で、スキー場や植林の構想が日の目を見ないほどいわくつきの難航不落の斜面であることから、周りからは、「あそこは何をやってもだめなのに、まして花を植えるなんてとんでもないこと。パカじゃない。」と批判された。それでも父さんたちは、そんな批判に負けじと、熱い闘志を持ち、造園業者をはじめ、芝桜の大先輩である東藻琴へ何度も足を運び、指導を受け、研究と準備へと取り掛かった。

そんな折、父さん達は太平洋炭鉱出身者と出会い、大きな衝撃を受けた。この方によると、ズリ山になる前のこの地は、コクアや山ブドウがたわわになるうっそうとした林であり、子供には恐ろしくもあり、楽しくもあり、なぞめいた場所であったとのこと。それが戦時中に伐採され、大根やイモの畑へと姿をかえてしまったが、この地域の子供たちの飢えをしのぎ、子供たちを育てたのがこの地であった。しかし、石炭とともに出る「ズリ」の捨て場となってしまう、自分たちが生きていくために犠牲となってしまう。そのため、この地が再び命を吹き返し、多くの人に喜んで見てもらえるようになるまで死ねないと。この方は、この地への恩返しとして、この運動に参加したいと申し出てくれた。

父さん達は、さらにこの地に対する熱い思いを抱く人達の声援を受けて、平成11年の秋には作付け用の畑も無償で借り受け、70余名の協力者のもと7,000株の苗を植えることからスタートした。

平成12年には、ズリ山の土壌づくりに着手、運送会社からの協力も頂き、ダンプ20台分の土と牛糞を入れて畑を作り、さらに美原地区町内会の全面協力を受けて、美原地区の落ち葉を2tトラック山盛り20杯分回収し、100人以上の協力を得て堆肥づくりに着手、やっとの思いでズリ山に芝桜を植え付けることが出来たそうである。

しかし、平成13年春に、芝桜は、新しい芽が出るどころか、全滅に近い状況になってしまった。なぜ全滅したのか、研究と討論を重ね、寒風により凍死したことが原因であることを突き止め、植え替えの時期、寒風対策、植付け株の大きさなどを検討し、再度挑戦した結果、平成14年春には見事な花を咲かせてくれた。そのような苦労があって、毎年春になると、あの灰色で無機質だった6,000㎡のズリ山が芝桜で変わろうとしている。

「釧路芝桜の会」の運動から、「まちづくり」に共通の教訓があるように思える。それは、困難にもめげず、生まれ育った地域を誇りに思い、自分たちの手でその地域を良くしたいという熱い思いが原動力となって、行動を起こさせ、まちづくりにつながっているのだと思う。そういう熱い思いを持った方を沢山育てることがまちづくりにつながる。まちづくりは人づくりと云われるが、まさにそれがまちづくりの原点だろう。

（熱い思いにふれて…）（山田）

窓口のご案内

北海道開発局 事業振興部 都市住宅課 まちづくり相談窓口
 E-mail machidukuri@hkd.mlit.go.jp
 TEL 011-709-2311 (内) 5866
 FAX 011-738-0235